

1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970900161
法人名	医療法人 忠友会
事業所名	グループホーム武田の里
所在地	〒 407-0042 山梨県韮崎市神山町北宮地5 電話番号 0551-23-3377

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年8月30日	評価確定日	平成19年12月13日

【情報提供票より】平成19年8月1日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13人	常勤	8人 非常勤 5人 常勤換算 3人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄筋 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 平成19年8月1日 現在

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.1 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	韮崎クリニック、韮崎相互病院、堀内歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年9月14日

医療法人としてクリニック、デイケア、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所の併設施設が、グループホームに隣接している。自然環境に大変恵まれているが、住宅地としては歴史が浅く数も少ない。中学校に隣接しているが、商店等も近所にはない。地域との関係づくりの面では、創意が求められる。職員は利用者の思いや意向を大切に、笑顔が多くなるように日々の支援に取り組んでいる。管理者を核に職員間の関係が良好で、職員レベルで可能な改善点には誠実に取り組んでいる。家族から、「母親らしさを取り戻してもらえた」と喜ばれる事例がある。改善課題もあるが、可能性や条件を持ち合わせているので、今後に期待したい事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	排泄時のプライバシーを考慮した支援が課題とされた。それに対してはカーテンをはずし、ドアを必ず閉めて支援するように改善した。また、利用者の思いや意向に添った支援のために「らしさシート」を活用し、よりその人らしさを引き出し、支援につなげるよう改善がみられている。職員の努力で改善可能な項目は取り組まれているが、法人経営と関連するものは手をつけられていない。法人の対応、指導性を特に期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の実施について、その直前に知らされ管理者が急遽評価を書き込むという状況である。職員の意見の反映もない。職員みんなで評価の意義を確認し、自己評価について職員の意見で評価がされるような取り組みを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成18年度は2回、今年度は1回と今まで3回開催されている。構成は市介護保険担当、地域包括支援センター保健師、民生委員、家族代表、法人関係者である。会議の目的や活動報告が主であり、委員に理解を深めてもらう場になっている。また、市の行事の情報提供もあり、福祉の日の参加や交流の機会につながった。年間計画の中で評価の報告や地域とのつきあいについてとりあげていただくことを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	必要に応じて家族への報告がされている。また寄せられた意見が、運営に反映された事もいくつかある。ホーム便りは発行されておらず、来所の少ない家族への報告は手立てがとられていない。ホーム便りの発行とあわせ、利用者の状況報告を定期的(月1回)に報告し、あわせて意見、苦情、不安など家族が気兼ねなく出せるような取り組みを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所として、自治会や老人クラブなどには入っていない。事業所内での生活が多く、地域の暮らしとのつながりがなく、地域の構成員になっていない。市の行事への参加ができたことはその一歩であるが、地域と繋がりが暮らし、道の清掃、防災訓練、ゴミ当番などにも参加しながら繋がりを強め、ボランティアの受け入れ、体験学習の受け入れなど必要とされる活動にも参加するような地域とのつきあいを期待したい。

2. 調査報告書

事業所名：グループホーム武田の里

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設に向けた中で、独自の理念を8項目に表して、表示もし、職員はその理念の実現に努力している。しかし、地域密着型サービスに位置づけられたことの意味の理解がされていない。	○	地域密着型サービスの意義をみんなで論議し、理念の中に盛り込むように検討していただくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、利用者の話をよく聴き、言葉がけをなるべく多く持つように努力し、受け入れるよに努めている。しかし、日々の実践と理念をつなげ、検討することはできていない。	○	地域密着型サービスの本質について、学ぶことからはじめていただきたい。理念づくりとあわせて、日々の実践と理念をつなげて検討し、改善する点やできたところは確信にして、自信につなげてほしい。また、その中でグループホームのケアのあり方を追求していただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会などにも参加していない。市の行事への参加を検討している。	○	地域の一員として生活するために、まずは地域の状況把握からはじめていただきたい。どんな組織があり、参加が可能かなど、事業所の都合だけで参加する地域とのかかわりだけでなく、そこで暮らし、必要とされる活動にも参加しながら、地域とのつきあいにとりくむことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の実施について数日前に職員に知らされる状況であり、自己評価も管理者が記入し、職員の意見の反映はない。ただし、職員の努力で改善できるものは、改善に取り組んでいる。	○	職員全体で評価の意義を理解することから、はじめていただきたい。また、具体的に改善につなげるためには計画書を立案し、法人としての指導性を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年度に2回、今年度1回と3回実施されており、会議録も整備されている。参加者も市の介護保険課担当、地域包括支援センター保健師、民生委員、家族代表、法人関係者などの参加が得られている。	○	運営推進会議を2ヶ月に1回開催されることを期待したい。また、年間計画をたて、評価の報告などサービス向上につなげることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の介護保険課担当、地域包括支援センター保健師等の参加が得られており、連携は前進している。	○	市町村からの働きかけやアドバイスを受けるという一方通行ではなく、グループホームからも積極的に情報提供しながら、日常的な関係をつよめることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は必要に応じておこなわれている。しかし、来所の機会が少ない家族への報告はない。ホームだよりは発行されていない。	○	ホームだよりの発行にとりこんでほしい。また、すべての家族に月1回は、個々の利用者の報告ができるように期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や家族の意見から、職員が名札をつけるようになったことや、利用者の電話利用の要望など、家族の意見を運営に反映させている。	○	来所される機会が少ない家族などの意見や不満などをどのように把握するかが課題である。家族との関係は、事業所からの報告とあわせ、家族からの意見をより出したもらえるような方策の検討を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2年9ヶ月の中で6名の職員の退職があった。早めに利用者には状況を説明するようにし、影響を少なくするための努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が採用された場合は、教育的に意識してかわり、業務に慣れるよう努力している。外部研修は管理者でも今まで2回であり、職員はほとんどない。また、法人としての研修の機会もなく、必要な時は、自費で休日を利用して研修を受けている。	○	現状を分析して、どのような研修内容が必要かの検討と合わせ、職員の希望を取り入れ、年間の研修計画を立案することを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に今年度はじめて参加したが、それが良い機会になり、交流の必要性を実感している。	○	市内にもう一カ所グループホームがあるが、韮崎市民が利用できるグループホームは、そこでのケアのあり方で決まってくる。交流の必要性について検討し、具体化することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の決定は、事業者が決定しているため、職員と利用者の馴染みの関係は構築されていない。	○	利用者が安心してホームでの生活をはじめられるよう入居前から、職員と馴染みの関係づくりが望まれる。併施設との関係からスタートしていただきたい。また利用者決定には職員の意見が取り入れられる運営を期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に畑の草取りや野菜作りにとりくんでいる。その中で利用者の経験から学ぶことが多くある。また、本を読んだり、じっくりと話したり、ねぎらいの言葉かけをしてもらったり支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の家族からの聞き取りやホーム内での生活の様子や聞き取りを意図的におこない、「らしきシート」を活用して、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者には担当職員が決められている。利用者の思いや意向を把握し、担当者から情報を得ながら管理者と計画作成担当者を中心に、より個別性を考慮した介護計画を作成するよう努力している。	○	介護計画に対する家族への説明や同意も、来所の機会が少ない家族への手だてはとられていない。カンファレンスの場で、みんなで話し合い、意見やアイデアをだしあって介護計画を作成することを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の個々の状況の変化に応じて、介護計画の見直しはおこなわれているが、定期的なケアカンファレンスは行われていない。	○	ケアカンファレンスを定例化し、職員体制を勤務表で確認し、担当者から1ヶ月毎の振り返りをしてもらい、話し合っ介護計画の見直しがされることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員の人手不足の問題もあり現状の活動以外のサービスの提供は難しい状況である。	○	事業所として、今ある施設、人材、積み上げた経験を生かし、どんなことであれば取り組めるのかについて、話し合うことを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者は併設のクリニックがかかりつけ医である。必要時往診もあるが、職員が付き添って受診している。2名は別のかかりつけ医であり、原則家族が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで終末期を迎えた利用者はいない。また、本人、家族とも入所前、入所後も話し合いがもたれていない。かかりつけ医との話し合いもない。	○	事業所としての方針をどう持つのか、まずはそこから確認していただきたい。利用者本人の意向を踏まえたうえで、事業所ができること、できないことを明確にし、入所時やどんな時に終末期ケアについて、話し合いを持ったらいかがか検討することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の支援について、カーテンをはずし、ドアを閉めて支援するように改善してきた。また、利用者の悩みや相談は居室で対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の生活のペースはある程度決められているが、全体的に利用者のペースに合わせたゆったりした流れである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が献立をたてている。昼食はデイの給食と同じ物が届き、配膳をしている。朝、夕は届いた食材を調理している。食事は職員と利用者が同じものを食べ、楽しい雰囲気です。	○	食事が楽しみになるように、利用者の好みを取り入れた献立、食材の調達のための外出、外食で目先をかえることなど、どこの家庭でもあるような食事が楽しみになるような支援を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間はクリニックの医師が在院している午後2時～4時と決められているが、夕方など利用者の希望を取り入れ自由に入浴することができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味、特技を把握し、畑仕事、カラオケ、手芸など利用者に合った楽しみごとや役割を見いだす支援がおこなわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人手不足という理由で散歩は週1回、ドライブなどの遠出は、事業者の許可を得た上で年1回、買い物、外食などはほとんどない。	○	利用者は外出の機会がほとんどなく、ホームに閉じこもった生活をしている。日々の生活に「張り」を見だし、普通の生活に近づけるため、毎日外出できるような支援が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、リビング、居室のどこも施錠はされていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設との共同避難訓練の実施や、連絡網の整備などは整備されている。	○	夜間は2ユニットで2階には、車椅子利用者が3名おり、職員だけでは、災害時対応が困難である。日頃から、地域の人々の協力が得られるような働きかけについて、検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェックとあわせ、日常生活項目の確認ができる一覧表が利用者毎に記入されており、特に食事量は3食の摂取量がきちんと観察、記録されている。水分摂取量は、1200cc,1500cc等詳細に記録され、利用者似合わせた支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りはプランターに彩りの良い花が植えられ、玄関には桔梗の花が飾られ、季節感が感じられた。居間のソファ、ベランダのベンチ、庭に置かれた椅子など共用空間は、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学が許可された居室は、今まで使い慣れた、小物入れやソファなどその人らしさが感じられるような居室の状況がある。		